

ては全く知り得べきに非ず。

安西に在りたる回鶻に就きては、前記の如く舊唐書廻紇傳に、遏捻可汗滅亡後、敗殘の部人が「皆向西順心、望安西麗勒之到」とし、之に續きて

麗勒已自稱可汗、有磧西諸城、其後嗣君弱臣強、居甘州、無復昔時之盛、到今時遣使入朝、進玉馬二物及本土所產、交易而返

と記し、以て同傳の記事を終れり、新唐書には、舊書の麗勒を扈特勒とし、遏捻の西走後に殘存せし部人が、

稍歸扈特勒、是時特勒已自稱可汗、居甘州、有磧西諸城、宣宗務綏柔荒遠、遣使者抵靈州、省其酋長、回鶻因遣人、隨使者來京師、帝卽冊拜溫祿登里邏汨沒蜜施合俱錄毗伽懷建可汗、後十餘年、一再獻方物

と記せり、舊唐書の麗勒は勿論麗特勒の誤にして、新書は之を扈特勒と書き更へたるに過ぎざるが、此の特勒の名は、既に開成五年回鶻分散の時に見え、舊唐書廻紇傳には前にも記せるが如く

有廻鶻相駁職者、擁外甥麗特勒及男鹿并遏粉等兄弟五人一十五部、西奔葛邏祿

と記し、新唐書にも

其相駁職、與麗特勒十五部、奔葛邏祿

と記せり、但し此の開成五年の分散の時に見える麗特勒と、後に記さるゝ麗特勒とが、必ず同一人ならざる可らざる確證は存せざるが如しと雖、然も兩唐書に前記の如く麗特勒既自稱可汗と記せる書き方の上より考へ、又此の時代の回鶻に於て、麗なる語が稱號としては他に類例〔二五三〕無く、必ず其の固有の名なるべきより考ふるも、兩者の同一は